

# 市政を問う

## 20人が一般質問



一般質問は要点だけをまとめたものです。全体を知りたい方は、会議録が各町図書館にありますのでご覧下さい。また、小城市のホームページにも掲載されます。  
(会議録の設置及びホームページ掲載は5月下旬の予定です。)

下村 仁司 議員



### 福所江水系の水害対策は

**問** ①福所江川上流部の三日月町では八

十六ヘクタールもの水田が宅地開発された。水田

の保水能力の低下は。

②三日月一号排水路の完成後の下流部の水害対策

③福所江水門の操作は行

**答**

(江里口市長)

福所江川上流域

において宅地開発などが進み、洪水、流出形態の変化により排水能力低下が懸念される。地域の一体的排水改良を行なって災害の未然防止を図る。

三日月一号排水路の操

福所江水門と排水機場と同じ機能の  
県管理の新川水門と排水機場



諸島町にある河川の水を有明海へ排水する施設

作は操作要員を配置し、関係機関との連絡調整、排水路流域、福所江川の安全を確認しながら状況に応じて調整をする。干潮河川であり操作に慎重を期すべき施設である。現在、県に管理操作を申し出てい

### 地域包括支援センターについて

**問** ①地域包括支援センターの介護サー

ビス事業者への民間委託は本来の趣旨に反していないか。市直営でできないなら中立・公平性のできやすい社会福祉協議会に委託先を限定すべきでは。

②保健者や市役所所管の個人情報。

③運営費も公費であり、

**答**

(江里口市長)

十八年度は市内一カ所直営方式で社会福祉協議会より派遣を受け運営したが、十九年度からは二カ所として北部地域包括支援センターは清水福祉会、南部地域包括支援センターは社会福祉協議会に委託して運営している。

**答**

(古川福祉部長)

委託契約の中に

中立・公平性の確認は。

個人情報に関する条項などがあってそれに基づいて業務を行なっている。

**問**

三日月庁舎内に清水福祉会が入っているので行政運営と勘違いするのではないかなぜか。

**答**

(古川福祉部長)

各種団体会長さんによる運営委員会を開いて公平・中立な運営を行なっている。

岸川 英樹 議員



水道料金の格差をなくせ

合併後、水道料金の格差について協議するとあるが、三年を過ぎた今、住民サービス

の公平化を図る統一がな  
せてできないのか。

**答** (江里口市長)  
市内において料金の格差があることは、合併後の重要な課題である。

ためには、小城市水道、西佐賀水道企業団それと佐賀西部広域水道企業団との統合を考え、合理化を図り、単価を安くし、その中で料金の統一を設定していくことが必要。

**問** 三つの企業との統合は難しいとの話だが、まず小城市水道と西佐賀水道の統合を検討すれば、業務委託により水の原価も下がるのではないか。

**答** (江里口市長)  
統合した場合、合理化に向けての影響があるのか、第一段階としてめざしていくのか、担当課と十分協議をしたい。

もう時間がない。農家の加入を推進するために真剣に検討するべきだ。

放課後児童クラブ  
時間延長を

**問** 小城市内の一年生から三年生まで、約二十%の利用で、開設時間が五時三十分までとなつていて、子供の安全性と保護者に対する就労支援のため、時間を延長すべきだ。

**答** (今村教育長)  
社会の流れであり、幼児教育審議会などにおいて、子育て支援、市の計画にしても、きちんとつたっている。しかし予算を伴うもので今年は五時半までとし、今後は年次をもって取り組むべきものと思つていてる。

問題も生じて来る。ないよりはあったほうがいいと言ふ考えもあるが、合併の目的を考えた時、解体、撤去を行政側に進言するが、市長の考えは。

いても、子育て支援、市の計画にしても、きちんとつたっている。しかし予算を伴うもので今年は五時半までとし、今後は年次をもって取り組むべきものと思つていてる。

**答** (永瀬教育部長)  
県内の状況は、六十五%ぐらいで六時以降まで実施している。今後の方向性としてはそのように進むべきかもわからない。

今後、市民の考えを十分に踏まえているような観点から検討して行く。指摘のように、解体して更地にするのか、考え方はいろいろある。民間に売却するのか、市でうまく使うのか、  
うのか、  
二十年度  
中で検討  
していく。

三根 實 議員



やる気があるのか

も質問しているが各地区の負担金が高すぎるとの

**問** 筑後川下流土地改良事業の件は何回も質問しているが各地区の負担金が高すぎるとの

意見が多い。もう少し安かったら加入する。米を作れない状況の中でなぜ負担しなければいけないのか、などの意見・要望を今後、設立準備委員会の中で検討することだが、地区説明会後、二年が経過しようとしている。要望を聞きながら二年もほったらかしとは、職務怠慢ではないか。やる気がないと言われても仕方がない。土地改良区の設立は、平成二十二年、

**答** (江里口市長)  
問題は佐賀西部広域線と多久導水路だ。現段階では三分の二の同意に達していない。近日中に設立準備委員会の方にも同行をお願いし、再度説明し集落の同意を得たい。

今後小城市が抱えている財政的負担として、下水道事業、学校、牛津の市営住宅などの計画がある。身の丈に合った行政運営を行つて行く中で本庁方式移行後、旧庁舎の取り扱いをどのように考えているのか。将来の小城市にとって、残すべきか、残した場合の負担、例えば耐震対策

移行後は解体・撤去がよいのでは

**問** 今後小城市が抱えている財政的負担として、下水道事業、学校、牛津の市営住宅などの計画がある。身の丈に合った行政運営を行つて行く中で本庁方式移行後、旧庁舎の取り扱いをどのように考えているのか。将来の小城市にとって、残すべきか、残した場合の負担、例えば耐震対策

**答** (江里口市長)  
合併協議会の中では、移行後は廃止し、支所機能の一部は保健センターなどへの移転を検討するとあるが、市民サービスの向上、行政運営の効率化も大切である。

今後、市民の考えを十分に踏まえているような観点から検討して行く。指摘のように、解体して更地にするのか、考え方はいろいろある。民間に売却するのか、市でうまく使うのか、  
うのか、  
二十年度  
中で検討  
していく。



▶ 芦刈放課後児童クラブ



▶ 本庁舎が検討されている三日月庁舎

**樋渡 邦美** 議員



**副市長二名体制の  
効果は**

**問** 市長は就任以来、二名の副市長体制で行政運営をなされているが以下三点質問する。

- ①各副市長の役割分担は
- ②副市長と各部長との権限範囲は。
- ③二名体制の効果は。

**答** (江里口市長)  
秋丸副市長は市民部、福祉部、教育委員会、市民病院、水道課。

森永副市長は総務部、産業建設部、会計局、議事事務局、選挙管理委員会、農業委員会、監査委員事務局。  
事務執行の権限などの

責任を明確にするため、決裁規定を定めている。多様な政策課題に対し専門的、かつ迅速な対応が可能になった。

**問** 副市長二名は牛津庁舎に在席、小城三日月、芦刈庁舎にも月のうち数回ぐらひは一日中在席してはどうか。

**答** (秋丸副市長)  
できるだけ担当庁舎に行き職員や住民とコ

ンセンサスをとっていく。(森永副市長) スケジュールを組んでおり当日については各課の課長、そこにおける市民の皆さまとの話しなどに心がけていく。

**小城市民病院の状況は**

**問** 現在内科医師不足のため、診療体制の縮小、救急患者の受入れ休止などにより市民に不安と不満が広がっている

るが、現在の状況および二十年度の体制は。

**答** (江里口市長)  
内科医師四名のうち午前中は三名で診療、午後の外来は休診、二十年度の計画は一日も早く医師の確保に努め、救急医療や時間外診療の復活、病床利用率の向上と各部門の収益増をめざす。

**問** 市民病院が市民に果たしている役割

と義務、また必要性についての市長の考えは。

**答** (江里口市長)  
地域に必要な医療のうち民間の医療機関が取り組みにくい医療の提供、また二十四時間体制の医療を行ってきた。市民病院が今後とも地域において、必要な医療を安定的かつ継続的に提供することを市民が求めていると認識している。

**今村 昌幸** 議員



**市民病院の医療体制は**

**問** 地域医療、中核病院として、使命が果せるか。病院開設以来長崎大学より派遣の内科医師が全て4月より引き

上げ、代って佐賀大学へ院長を含めた派遣とシフト変更をされた。病院の要である一般内科の派遣が佐大で確実にできるか。

**答** (江里口市長)  
教授会などに諮っていたとき、四月より二名の派遣と今後の支援の表明をいただいた。

**問** 二人採用するのに三人を辞めさせている。地域医療、二次医

療機関として役割が果せるか。病院機能を自ら崩壊させているのでは。

**答** (江里口市長)  
医師確保を含め対策を講じている。しばらく時間をいただきたい。

**問** 病院がまちを追いつめる。平成十三年度より十九年度も医師不足などで大幅な赤字の見込み。二十年度も午後休診、入院の制限などで

費用に対する医業収益は更に厳しくなると思うが。

**答** (江里口市長)  
収入確保に向け内科医の確保が第一であり、病院の抜本的な改善・改革を行う。

**一期四年の総仕上げ**

**問** ①今後の小城市を占う二十年度予算、財政不足の調整を図る主な三基金は、枯渇を避け

- ②市の大型事業などは指名業者を見直し、地場産業の育成、地域企業の活性化を図るように。
- ③公共下水道事業の小城処理区は、平成十六年に認可、十七年着手の計画だったが、全く進んでいないが対策は。
- ④合併後五年を目標にと確認されていた本庁本式は、3年を経過したが進展がない。本当にできるか。

**答** (江里口市長)  
今後の大型事業に伴う地方債の増発が見込まれる。負担軽減を図る地方債の繰り上げ償還などを重点に編成した。地域要件など地元業者の育成を総合的に勘案した制度に取り組み。周辺地域も含めた計画などを協議する。残り二年では難しい面もある。



**上瀧 政登** 議員



**答** (江里口市長)  
利用者の減少と収入の落ち込みは続いてい

る。近隣に類似する温泉施設がオープンした事とまだ食堂が営業できていないのが原因と考えられる。二十年度からは指定管理者制度によりリョーユースポーツプラザが全面的に運営を行なう。施設の設置者としての責任者である小城市と管理運営者とよく協力して利用増を図っていききたい。

**グラウンド使用料の適正化を図れ**

**問** グラウンド使用料が一定せずスポーツ愛好者にとって不可解な事が多すぎる。改善すべきではないか。

**答** (今村教育長)  
二十年度中には使用料や受け付けの事務など、調整や統一を図り整備する。

**本庁方式移行の決め手は**

**問** 市長は十二月議会で三日月庁舎の場所を本庁にしたいとの考えを示された。何が決め手となったのか。また今後の手続きはどうするか。

**答** (江里口市長)  
小城市の人口重心地に近接している事、交通のアクセスや旧町の公

共施設の配置状況とのバランスや市街地との連携性などから判断し、三日月庁舎に決めた。今後は本庁移行推進課を設置して業務にあたっていく。また六月議会くらいには議員の皆様判断してもらいたい。

**広域清掃センターはどうなるのか**

**問** 新聞報道によると小城市の可燃物は唐津で引き受けができる

という事だが市の考えはどうか。

**答** (江里口市長)  
今後の廃棄物の処理として効率的で最善の方法を選択していく必要



▶老朽化した天山じん芥処理場

があり関係機関とよく協議していく。

**金原 修光** 議員



**アイルの活性化のために**

**問** 牛津保健福祉センター(アイル)の現状と将来についてどのように考えているか。

換えはなく、毎日塩素消毒のプールに入っている。プール水の入れ換えを。

**答** (今村教育長)  
循環ろ過器で水質管理している。

**答** (江里口市長)  
私が、どうこう言うことじゃない。教育委員会

会で協議すべき。

**答** (江里口市長)  
区の再編・統合は、理解など得ることはむずかしい。

か。

化したい。

**問** 限界集落からの若者の流出防止策として、企業誘致があるが、

経費・業務が均等の、県が進める共同整備方式になぜ賛同しなかったのか。

**答** (江里口市長)  
市長の四十九のマニフェストは来年任期までに達成できるか。

**答** (江里口市長)  
実施済み四項目、着手中が三十七項目。

**市内学校プール水質について**

**問** 小学校プールを公立保育園・幼稚園の子供達が利用している。使用期間中は、水の入れ

**問** プール水の入れ換えに約五万円かかるが、低学年や園児のためには必要では。市長、今年から実施すると約束できるか。

できるか。

**集落での人口減少対策**

**問** 定住人口減少に合わせて、仕組みを変えないと残された住民は、負担が大きくなり集

落崩壊にもつながる。対策はとってきたのか。

**答** (江里口市長)  
提案を受け福祉バス・循環バスなどを一本

断実行を。

**答** (江里口市長)  
市独自の企業誘致選定調査費を九月に提案した。県からは十月に来

たと認識。提案した時期より遅かった。

他、ETC専用インターチェンジ建設について質問しました。

諸泉 定次 議員



てのアドバイザーで、県立病院、武雄市民病院も医師不足の中で、医師が確保できるのか。

答

(江里口市長)

内科医不足で平成十八年、十九年は赤字。

アドバイザーで医師は確保できるのか  
市民病院がこれまで果してきた役割は何か。また、赤字の処理や一千二百万円も払っ

これまでの積立金や減価償却費など内部留保金が一月末で十四億八千七百万円あり、赤字を補っている。一般会計からの病院へ補助や赤字の補てんはなく、国からの特

別交付税の範囲内で対応している。国民健康保険税の関連では、旧小城町が他三町より費用額・国保税も低く、地域住民の健康向上と医療費負担の軽減にも貢献してきたと考えている。  
医療アドバイザーは、民間的経営手法での経営改善と医師の確保は急務であり専門職の配置で、経営本部長として院長のもとで一定の権限を与えたい。いずれにしても、

医師の確保は急務。アドバイザーに丸投げでなく私たちも一緒に相当な覚悟で取り組む。

四十年の借地にピリオド

問

老朽化した市営住宅の建て替え計画の進捗や民間との比較はどうなっているか。  
四十年間もの借地は異常であり、この四年間でピリオドを打つべき。

答

(江里口市長)

牛津の市営四団地は、二ヶ所が借地で借地料年間六百七十七万円。今後は、策定予定の小城市住宅建替基本計画で候補地の検討を経て、平成二十年度に用地取得を行う。建てかえに数年かかる。建設資金は地域住宅交付金四十五%、残りの五十五%を公営住宅建設事業債で充当する。コスト面での比較では民間より市の直接建設がいいと



▲老朽化と40年の借地で建て替え予定の市営天満町団地

他、メンタルヘルスへの対応を質問しました。

堤 克彦 議員



本庁舎移行問題

本庁舎移行問題  
市内の検討委員会で示された五ヶ所の候補地をたたき台に、八百四十万円をかけてコンサルタント会社に調査

を委託。同社は既存庁舎の再利用は大幅な耐震補強が必要、改築後の耐用年数を考慮すると、新築のほうが安価ですむ。諮問機関、懇話会がコンサル案を詳細に検討、土地確保の容易さ、市のほぼ中央に当たる地理的条件などから、JR小城駅南での新築が最適と提言された。コンサル案懇話会の提言を退け、三日月庁舎の有効活用を表明。なぜ既存庁舎か。

答

(江里口市長)

本庁舎だけの問題ではなく、合併後の小城市全体を見渡して、さまざまな問題をクリアしながら、財政的な問題などの課題を関連づけて整理していく必要がある。懇話会の意見も十分に尊重し、総合的に判断した。

小城町の下水道の進捗状況は

問

小城町の下水道事業は、一歩も進んでいないのが現状である。清水地区の取りかかりは早く、あれから約九年の空白、時間がとまっている。市長と語る会で、「小城町の下水道事業は、今年度中、三月末がタイムリミットである発言、タイムリミットと言いながらも、話し合いが停滞している。今後地域振興策を含めた案を提示しながら、理解をいただけるよ

答

(江里口市長)

うすっかり取り組む。」という答弁である。去年の九月に轡ヶ里地区との話し合いが持たれている。半年以上何の進展もない。  
財政問題は言うまでもなく、都市計画との整合性を図りながら、この地域にどのような施設が適当であるか検討を行っている。生活環境の改善は言うまでもなく、水質保全についても重要

河川清掃について

問

小城地区は春、秋二回の一斉清掃を行っている。牛津地区は、市民の皆さん方の協力で、牛津地区も同時に実施している。

答

(江里口市長)

市民の皆さん方の協力で、牛津地区も同時に実施している。

**合瀬 健一** 議員



**鳥獣被害防止の考え方**

**問** 今年二月二十一日に施行された「鳥獣による農林水産業に係る被害の防止の為の特別措置に関する法律」で

は、市町村において鳥獣被害を防止するための計画を定めることができる。そのうち、被害の防止に関する基本的な方針、被害防止のための防護柵の設置の件、捕獲した対象鳥獣の処理に対して市の考え方は。

**答** (江里口市長) 特措法を活用して被害防止の取り組みを積極的に推進できるように、

平成二十年度の早い時期に計画の作成に当たりたい。

**答** (北島農林水産課長) 防護柵の設置については、非常に高価であるので、生産者と十分協議しながら進めていく。処理については、埋設処理をやっていく。

**問** 他の市で、イノシシの加工所を設置し、市の特産物にしようという取り組みがなされている。小城市でも将来

に向けて考えられないか。

**答** (北島農林水産課長) 行政だけではできないので猟友会と話し合いながら進めていく。

**問** 防護柵の件であるが、電気柵の効果が薄れてきている。他県や他市では、ワイヤメッシュの導入を進めている。市としての考えは。

**答** (北島農林水産課長) ワイヤメッシュは高価であり、また小城市は果樹園が点在しているため効率が悪い。電気柵の管理をしっかりと、効果を出すよう進めたい。

**問** 山間部は荒廃樹園地が増えている。それをなくす対策は。

**答** (江里口市長) 他地域の事例を



▶ワイヤメッシュの事例

参考にして取り組んでいきたい。

**高木 一敏** 議員



**足跡をしっかりと残せ**  
初代市長

**問** 合併して、丸三年が過ぎた。市民は行財政面の見直しで市長に期待していた。この三

年間、市長は色々な所に出かけ、見識は広く、深くなったと思う。また、新市の総合計画も出来上がったがどのように実行していくのか。

**答** (江里口市長) 人件費や物件費の行政経費の削減に取り組んできた。また、市税などの徴収率向上に収納対策課を設置して滞納徴収の強化を図る。

**問** 滞納者に、真心から納めていただけるような体制は。

**答** (松本総務部長) 収納対策課は、課長以下総勢十名を予定している。

**本気で取り組もう**  
生活のために

**問** 七月七日から三日間、北海道の洞爺湖畔でサミットが開かれ

る。地球温暖化対策が主要な議題と言われている。ごみの分別カレンダーにCO<sub>2</sub>削減の家計簿を付けてほしかったが付いてない。小城市の計画はどうなっているか。

**答** (江里口市長) 平成十八年九月に、小城市地球温暖化防止実行計画を策定し、温室効果ガス抑制に心がけている。二十三年までの五年間で、排出量の六パーセ

ントを削減する計画で取り組んでいる。

**問** 市民への啓発は、具体的にわかりやすく、何回もあらゆる機会に理解してもらいたい。実行してもらったことが大事だ。

**答** (梅崎市民部長) 温暖化防止の手段は、資源物の分別収集、野焼き防止、自家用車の燃費、電気使用量の抑制と普段の生活で取り組み

る。色々な会合で啓発して行く。

**校旗は学校のシンボル**

**問** 市立保育園、幼稚園の園旗、小学校中学校の校旗は薄い印刷したもの配られているが本格的な校旗の考えは。

**答** (今村教育長) 市立表記に統一していくと言う考えで対応したい。



中島 正之 議員



無理。就学前の充実した教育のため助手の配置を。

答

(今村教育長)  
地元の方が入れないという事は真摯に受けとめて、今後教育委員会として来年度はきちんと対応していく事を約束する。助手の件は即答できないが、担当と打ち合わせをする。

芦刈幼稚園の定員増、クラス増を

定員の関係で地元幼稚園に入園できない。また、三十五人の園児を一人の先生では

答

(江里口市長)  
教育委員会と協議し、その辺しっかり対応

できる分は対応していく。



▲芦刈幼稚園

赤字続きの市民病院の今後は

医師確保も病院経営は行政感覚では

無理。民営化、または現在のスタッフでやれる介護療養型老人保健施設に一部を用途変更する考えは。

答

(江里口市長)  
市民病院としての役割が本当に終わってきただと言ふ事であれば、民間への移行なども考えられると思うが、まだ二十年度については今の市民病院の体制を市民の皆様が安心できるような形に

立て直したい。何とかチャンスをとっていただきたいと言ふ事でアドバイザー導入もお願しいたい。

問

アドバイザーで経営改善をやるという事だが、もし経営改善ができなかった場合の責任は誰にあるのか。アドバイザーの提言を実行するには総額いくら必要なのか。優先順位をつけて是非必要な事から実行すべきでないのか。

答

(田中病院事務長)  
十九年度に提言されたが詳細の費用については出していない。今後優先順位をつけて取り組んでいくなかで費用も出していかねばならない。

深川 高志 議員



いきがい型サービスの再編は利用者の声を聞いて実施すること

生きがい型対応サービスサービスの再編は、各実施施設の利

用者の状況を踏まえ、事業の効率的な運営、市民の融和を図る観点から再編統合を実施することとであった。しかし、現状では利用者の声を聞く事もなく、説明も不十分であり、高齢者に対する配慮不足などから利用者の反対があり今年からの実施計画が一年後の見直しとなった。来年度に向け、基本的な考え方と対応をどの様に考えているのか。

答

(江里口市長)  
二十年度は利用者からいただいた意見の内容について検討を行う。サービスふれあいサロンについても要望が出されているので利用者や市民の声をしっかりと聞いて、生きがい対応型サービスのあり方と、ふれあいサロンを含めた観点からいろいろ検討していく。

問

各保健福祉センターは地域福祉の拠点として利活用がされているのか。

答

(野口健康増進課長)  
各種検診や予防教室及び母子保健の分野など幅広く利用されている。市民にとって広く利便性の高い施設ということで、自主事業、自主活動などにも今後利活用が図られると思っている。

中心市街地活性化事業の実施計画の考え方は

問

中心市街地活性化事業について、実施における基本的な考え方と小城市財政健全化計画との整合性の考えとは。

答

(江里口市長)  
改正まちづくり三法の中で計画を立てている。国・県の支援を受け、中心市街地がしっかりと

答

(森永副市長)  
財政健全化計画にある都市計画税の創設について、この中心市街地活性化事業では考えていない。財源計画として、まだ中心市街地活性化に伴う経費の総額は出していない。基本的にはソフト中心の事業になる。財政との整合を図っていく。

**中島 正樹** 議員



**どう乗り切る  
財政難**

**問** 平成二十年度小城市予算主要事業の方針はどう考えるのか。

**答** (江里口市長) 市の将来像の実現をめざした総合計画、私

が市民と約束している重点実施計画、行政改革大綱及び各個別計画などに基づき予算編成を行った。

**予定候補地無しに、  
なぜ実施設計費**

**問** 市南部給食センター―建設事業の経緯経過と現在の状況、今後の推移と今後の方針は。

**答** (今村教育長) 市内の給食の取り組みはそれぞれ異なる。

センター方式、単独での自校方式、複数施設、共同の自校方式、そして弁当委託方式で、完全給食、副食のみ給食など。異なる給食のあり方をどのように調整していくのかが市に課せられた大きな課題だが、検討委員会や審議会の中でもセンター方式による集約化が望ましいとの答申があった。今

**平野 泰造** 議員



**市民病院の今後は**

**問** 地域の中核的医療機関として建て直したいと市長は強い決意であるが、医師の確保対策は。経営改善アドバイザー

**答** (江里口市長) 民間が取り組みにくい医療の提供や市民の健康保持、病気克服のために二十四時間安心できる体制を確保したい。将来の方向づけに経営改善アドバイザーを院内に配置し病院の業績運営に係る企画、経営分析、改善の指導を行い地域に愛される病院として存続したい。そのためには医師の

ザーは成功報酬か。

確保が一番大事で大学や民間の医局にお願しい最善を尽くしたい。

**答** (田中病院事務長) 経営改善アドバイザーは年間千二百万円、月百万円の委託料である。



▲小城市民病院

**子育て世代の意見を  
施策に反映を**

**問** 三歳以上就学前までの入院医療費は無料になるが、自治体が

後は、来年度から建設する牛津中学校の完成をめぐりに給食の提供ができるように早期建設着手を目指し努力したい。将来、小城給食センターとの統合を視野に入れ慎重に結論を出していきたい。

**答** (江里口市長) 就学前までの無料化は自身の公約の一つ

であるので段階的に無料化に向け努力していきたい。二十年度は入院についての無料化の実施でスタートしたい。

できることは自治体ができるという本来の子育て施策の観点から、就学前までの医療費全面無料化を実施し子育て支援を行う考えはないか。

**答** (江里口市長) 格差が生じないよう検討する。

他、市民病院・運動公園跡地について質問しました。

**下水道エリアを決  
定したのは行政だ**

**問** 下水道エリア外の市内四百二十八戸に対する今後の対応は。

**職員の知識・能力  
の最大限活用を**

**問** 市財政状況は厳しく、行財政改革が

求められる。業務委託費の削減もその一つで、職員のやる気で最小の経費で最大の効果が得る改善をされているか。①能力アップのための職員教育は。②職員提案制度の今後の取り組みは。③旧四町間の職員給与格差の是正状況は。④職員の質の

向上のための内部評価と外部評価。

**答** (江里口市長) 職員それぞれの特性、個性を持ち、体験

経験をふまえ知識を含め最大限活用できる体制をとっている。職場づくり人事管理、能力開発を三本柱とし、自治大、アカデミーの中央研修や事務事業評価研修を行っている。非常にすばらしい提案がされているので統

**答** (松本総務部長) 平成二十年一月

一日現在調整対象者四百五十八名。その中で七一・二%の職員の調整が終わり、あと要調整者百二十九名二十八・二%の残、二十一年一月一日に残十八名四・一%となる。事業評価は職員の資質向上になる。外部評価も当然必要となる。



岸川 弘文 議員



牛津駅南開発と商店街活性化は怎么样了か

小城市総合計画を終え、前期五ヶ年の一年目を終えようとしている今日①市営住宅の

候補地の選定は、いつから着手するのか。②駅の南側からの乗降口の開設は。③未着手都市計画道路の整備は。④商店街活性化のための中心市街地の連携はどのように検討されたのか。

答

(江里口市長) 住宅マスタープランにより、建替え候補地として牛津地区内の三ヶ所に絞りこみ(駅南を含む)最終的に一ヶ所

に絞る。駅南から降りる自由通路は、現在は中断しているが、市街地の機能や役割を明確にし、小城市の一体的な都市の発展をイメージできるものとして検討する。未着手の都市計画道路は、全体的に道路網の見直しを行う。即着手することは今の財政状況から難しい。商店街活性化対策は、駅南の開発が中心市街地に資するものと考え、ソフトが先行する

まちづくりをハードが支援することにより、商都牛津の将来の発展をイメージするまちづくりを市民協働で実施していく。

庁舎建設は社会動向を見きわめ行うべきでは

本庁舎建設の時期と概算費用並びに管理費節減効果は。

答 (江里口市長) 本庁移行は事業が

円滑に進んで平成二十二年三月の予定。増改築のハード部分は、用地取得後三年位は必要。建設費は、概算で最大四十億円の予定であるが、極力費用を抑えていくよう努力する。維持管理の費用対効果は、年三千二百三十三万円の削減が見込まれる。

問

社会情勢も輸入原料の高騰、原油高、地方財政の厳しさなど合併当時の予想と大きく

答

(江里口市長) 社会情勢の厳しさは理解するが、住民サービス、危機管理など不合理なところもあり、既に議論されている。多くの事業費をかけるつもりはない。

江島佐知子 議員



民間委託は十分な検討を

①委託する際の基準と委託先の選定方法。

答

(江里口市長) 特に基準は設けていない。専門性、技術職員体制、事業期間などを考慮し、より高い成果の期待できるものを委託(松本総務部長)

問

職員でできることは職員です。

②自分たちで作成した方が市民ニーズに合った効果的なものがないか。③教育業務への人材派遣の考え方は。

答

(今村教育長) 市の日々雇用できるは最長一年しか雇用できない。三年から五年を見通し教育の質を損なわないように対応している。研修や意見交換もこれまで同様行う。

中心市街地活性化のポイント是小城庁舎

①対象地区。②事業規模。③小城庁舎の利活用方法。

答

(江里口市長) 小城鍋島藩時代の城下町が基本。小城駅から須賀神社までの約百四ヘクタール。

大規模な公共投資はない。ソフト先行のまちづくりをハードが支援する形で効率的・効果的なまちづくりを実現したい。重要なポイントになる。

答

(森永まちづくり推進課長) 基礎調査を実施し、庁内まちづくり推進本部でたたき台を作成。

それをベースに関係者や地域住民で構成する基本計画策定検討委員会を開催。七月までに素案を作成。同時に内閣府との協議もスタートさせたい。二十年度中に計画を策定、国へ認定申請したい。



▲どう活かす、小城庁舎

松尾 義幸 議員



小城の運動公園跡地の活用はどうする

問 私も参加した「鍋島の里をつくる会」が、地元の賛同を得て青少年健全育成乗馬学

校の提案をしてきたが、市の対応が極めて弱かったため取り組みを断念した。小城の運動公園跡地の活用で三点質問。

- ① 土地開発基金により買い求めた土地は、一般会計で予算化し、年次計画的に買い戻すべきではないか。
② 自然・歴史・文化を活かした活用をどう進めるか。
③ 市政方針に「現在造成が進んでいる道路の東側

のエリアの一部について民間が活用できる部分があれば活用していきたい」とある。私は住宅用地と理解したがそれではないか。

答 (江里口市長)

現時点での計画に沿った買い戻しの予定はない。財政的な面もあるが、利活用などの計画が立てば、その都度買い戻しが必要になってくる。このエリアは、青少年

の健全育成の観点に立ち自然環境、歴史的な背景を十分考慮し青少年のためのものである。歴史・自然教育の場、生涯学習の場として利活用を推進したい。具体的な計画は現在のところない。

現時点では、どの場所を住宅用地として活用するなどの計画はない。財源不足も深刻な中で、自主財源の確保を図る意味で、利活用をどうするか非常に大きな課題。自然

豊かな場所なので何とか民間の活用も踏まえて利用できる部分があれば利用していきたい。

他、① 松本山採石場に対する県や市の考え方を問い、市有地の裸地の植栽計画を立てることを求める。② 三日月町石木の水害対策。甲柳原と牛津町乙柳の水害時における連絡調整と土地改良事業で新設された道路の早急な開通の努力を要請。③ 芦



鍋島の里をつくる会が提案した企画書

刈海岸堤防四千八百八十メートルの内側、外側、側道の無数の亀裂の発生を指摘し、対処を求めた。

香月千エミ 議員



メタボ健診への備えは

問 平成二十年四月から高齢者の医療の確保に関する法律によりメタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の

予防に重点をおいた健診と、その結果で特定保健指導の実施が義務づけられる。

- ① 健診や死亡分析結果は。
② 受診率を上げる施策は。
③ 管理栄養士の設置を。

答 (江里口市長)

全国・県に比べ生活習慣病の中では、肺・胃・乳がん、糖尿病の死亡率が高い。平成十七年の小城市の人工透析患者数は八十一名。

答 (野口健康増進課長)

受けやすい健診を工夫する。現在の集団健診のみから、二十一年度以降は市内の医療機関などで直接受診ができる体制を検討する。二十一年度受診率の目標を四十八パーセントとした。

答 (古川福祉部長)

嘱託や職員で一名採用としてもそれに補助員が必要なので、現状(日々雇用四名)でいき

育農で元気な農業を

問 食を取り巻く環境は、いっそう厳しさを増している。

- ① 学校給食の材料調達、トレーサビリティ(生産履歴の管理)、ネットワークの構築は。
② 「ふるさと食の日」を広げ、郷土の食の文化や

技術を伝える体験の場に。③ 女性や若者などの視点を反映させ突破口に。

答 (今村教育長)

中国産冷凍ギョウザ健康被害発生時、原材料の安全性の確認のため献立変更し、四月以降は国内産で対応したい。各施設には農薬使用の少ない食材の納入をお願いしている。地元のJA、

直売所と連携している。地域や生産者、保護者と共に食育の授業、試食会、生産地視察、ゲストティーチャーなど努力し計画してやっていきたい。

答 (江里口市長)

育農にかかわる女性、若手農業者など経験豊富で実行力のある方々がリーダーとなり、課題を共有して推進したい。



▲水田に歓声、田植え体験(三日月町)



# 議員活動あれこれ



新年名刺交換会(1月)



芦刈夜なべ談議(2月)



モデル子どもクラブ発表会(3月)



三里梅まつり(3月)

**大坪 徳廣**  
議員



**市民病院の診療体制は**

**問** 小児科の医療体制について。

**答** (江里口市長) 現在は佐賀大学が

ら毎日午前中派遣でお願いしている。また午後及び夜間の診療ができていないので、常勤の小児科医師の確保がまず第一と考えている。

**問** 救急医療体制について。

**答** (江里口市長) ことしの二月から

医療体制の縮小に伴い、救急の受け入れも制限させていただいている。市

民の皆さん方には大変な不安を与え、公立病院の使命を十分果たせなく大変残念でならない。救急体制は公立病院の重要な役割と思っており、一日も早い救急体制再開へ努力したい。

**問** 地域、市民から信頼される市民病院をめざせ

市民病院は地域の軸となるべき。

**答** (江里口市長) まさに同感である。十九年度に整備する地域医療連携室を早期に軌道に乗せ、近隣の病院・診療所等との地域連携を推進していきたい。市民病院は地域に必要な医療のうち、民間の医療が取り

組みにくい医療の提供をしっかりととしていき、中核病院としての役割が果せるよう努力すべきと考えている。

**問** 市民病院の民営化か。

**答** (江里口市長) 民間委託、民間譲渡などは考えていない。今後は公立病院として経営的にも安定し、持続するための方策、どのような診療科目を提供すべきかなど病院改革プラン策定の中で市民の皆さん方のご意見を伺いながらしっかりと判断していきたい。

るための方策、どのような診療科目を提供すべきかなど病院改革プラン策定の中で市民の皆さん方のご意見を伺いながらしっかりと判断していきたい。

▶救急体制再開が待たれる市民病院

